

## 献 辞

網屋教授と初めてお会いしたのは、私が在籍していた鹿児島大学教養部の雑然とした研究室でありました。私が本学学長に就任することが決まった時のことでした。鹿児島県立短期大学の歴史と当時直面していた諸問題に就いて、ゆっくりと丁寧にお話をして下さったことが今でも耳に残っています。今度は私が先生をお送りすることになり、感無量です。先生は昭和47年に鹿児島短期大学から本学に赴任され、このたび定年で御退職されることになりましたが、その間29年の長い間に亘って本学の教育、研究並びに図書館長、学生部長として大学の運営にあたってられました。

先生の御専門は法学、特に労働法で、私の専門分野である生態学とはずいぶん懸け離れていますので、先生の御研究の内容について詳しく述べる能力はありませんが、私が興味を持った最近の先生のご研究について、その理由を述べさせていただきます。1975年私が当時のユーゴスラビアとの国境にあるイタリアのトリエステに行った時、トリエステ大学のピニャッティ教授と一緒にユーゴスラビア国境まで行ったことがありました。国境の傍らの小高い丘の上にある古い教会からユーゴ側を見渡すと、アドリア海沿岸の植生は連続しているのに、隣国どうしの体制は全く異なっていることに違和感を持ちました。このような訳で私は、先生の社会主義国ユーゴスラビアから社会主義解体後に至る労働法の変遷と再編に関する5編の論文に、興味をもっています。勿論、私は法学については全くの門外漢で、然るべき機会を得て先生からお話を伺いたいと思っています。その後、ユーゴスラビアは政治体制の変化だけではなく、国が分裂するという劇的な変化を遂げています。それぞれの分裂国家がどのような法体系と労働法を持つのか、先生には是非追跡して頂きたいと思います。

労働法の主たる御研究からは少し外れていると思いますが、先生は薩摩漂民ゴンザについての研究成果も3編出されています。ソウザとゴンザ以前に漂民となった伝兵衛とロシア名サニマによって育てられた日本語研究者アンドレイ・ボグダノフの指導によって、ソウザとゴンザが「露日辞典」など6冊の日本語

の参考書を出版したということは、薩摩の漁師でも、社会環境次第では後世に残る知的な大事業をすることができることを示したということで、明治維新とその後に活躍した旧薩摩藩士の活躍を歴史の表とすれば、裏の面で鹿児島の人たちの誇りでもあります。

65歳という年齢は、雑務から開放され自由になる年令であり、時間に束縛されずに、研究に十分な時間を持てることを意味しています。先生には益々お元気で、御専門の分野だけに限らず、幅の広いご研究や執筆活動を続けられんことを期待しております。

2001年3月

学長 田川 日出夫

## 献 辞

2000年3月をもって網屋喜行教授は本学を退職することになりました。

網屋先生が本学に赴任されたのは1975年4月のことです。したがって、20世紀の第4四半世紀を本学商経学科とともに歩まれたことになります。そのご尽力とご功績に感謝して、ここに『商経論叢』第51号を網屋喜行教授記念号といたします。

網屋先生は、本学科はもとより鹿児島県立短期大学の重鎮としてご活躍されてこられました。そのご活躍は、労働法のご研究はもとより、熱を帯びた法学教育として深くわたしたちの記憶に刻まれております。

また、大学の機構におきましては、第2部部長や学生部長、そして附属図書館長などのさまざまな役職を歴任されました。教授会等における重みのある発言とともに、先生のご創意による「2部だより」の発行や、附属図書館「金曜講演会」の創始など鮮烈な実行力も記憶にのこるものであります。「金曜講演会」は学内外の人々と交流する場として育ちつつあり、今後とも本学の文化資産として継承されてゆくものと思われます。これらのお仕事は、まさに「短期大学教育功労者」の姿そのものでありまして、昨年の文部大臣表彰はそれを追認したものであります。

網屋先生は1994年来、薩摩からロシアに漂流し、日露辞典を編纂したゴンザという人物について関心を示され、のちに研究成果を公表されるにいたります。これは先生が研究のなかで培われてこられたロシア語を駆使して鹿児島の無名の文化水脈を掘り起こすという、独創的で広く人々を魅了するお仕事であります。わたしたちは、コンザファンクラブ会長という先生のもうひとつのお姿をここに記しておきたいと思うものであります。

商経学科と網屋先生がともにした20世紀の第4四半世紀のなかには、先生がかつてご研究のために長期滞在されたユーゴスラビアの解体と内戦というグローバル・イシューもふくまれております。ベオグラード大学政治学部はいまどうなっているのか、25年の時の流れにあってわたしたちが先生にあらため

てお伺いしたいところであります。そのような意味では、先生と商経学科のつながりはまだ続いているのであります。

網屋先生、本学における先生の長年にわたるご活躍と公私ともどもにわたるご厚情にたいしまして再度謝意を表したいと存じます。

ありがとうございました。ひとつの節目としてご挨拶申し上げます。

2001年3月

商経学科長 中山 一樹